

論文番号 81

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Is the apparent cardioprotective effect of recent alcohol consumption due to confounding by prodromal symptoms?

発症直前のアルコール飲用による明らかな心疾患予防効果は、心疾患の前駆症状による交絡か。

執筆者

S Wouters, R Marshall, RL Yee, R Jackson

掲載誌 (番号又は発行年月日)

American Journal of Epidemiology 2000;151:1189-93

キーワード

alcohol drinking, case-control studies, coronary disease

要旨

飲酒後 24 時間以内は、急性心筋梗塞の予防効果があるとする研究報告がある。本研究は、このような飲酒の急性期効果は、心疾患発症の前駆症状による飲酒習慣への影響による交絡現象か否かを検討することを目的とした。著者らは、地域において、急性心筋梗塞を起こした患者を症例とし、同じ地域から対照者を選び最近のアルコール飲用について調査し、症例対照研究を実施した。急性心筋梗塞症例は、心疾患の前駆症状により気分がすぐれず、アルコール飲用を控えたとの成績が得られた。他の要因を考慮しない分析では、24 時間以内の飲酒は、急性心筋梗塞に予防的とする結果であった。しかし、心疾患の前駆症状を考慮に入れて分析すると、その関連は大きく弱まった。以上の結果より、ごく最近のアルコール飲用に急性心筋梗塞予防効果があるとする報告は、このような前駆症状による交絡現象が関与していると考えられる。